

公同礼拝

2024年7月7日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄 佐藤裕子(夕)

前 奏

招 詞 詩 編 29編1b~2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

申命記 6章4~9節 (旧291)

マタイによる福音書22章34~40節

(新44)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 54

説 教 「生き方の起点」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 239

聖 餐 式

献 金

頌 栄 543

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

7月の祈り

聖霊の導きを受けて、上にあるものを求め、希望に生きることのできるように。

混迷の時代にあって、御言葉を灯として、信仰の歩みを積み重ねることができるよう。

礼拝、祈祷会、教会学校が力づけられるように。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

主の御支配のもとに教会が整えられるように。教会の務めに立てられ、仕える人々が支えられるように。

教会が礼拝と聖餐の恵み受け、与ることが叶わない兄弟姉妹に主のみ手が与えられるように。

体調不良の兄弟姉妹が守られるように。

「生き方の起点」 高橋和人

マタイによる福音書22章34~40節

主イエスの敵対者は新たな論争を持ち出す。サドカイとの論争は「神は生けるものの神」であり、復活の希望もそこにあることをはっきりさせた。論争が主の御心を明らかにして行く。

ファリサイ派は集まり、対応を相談する。復活は彼らの主張でもあった。そこで仲間の誰かに質問させる。それは、主イエスを自分たちの計りによって計ろうとすることであった。

その中でも指導的な律法の専門家が、自分たちの最も重視している「律法」について尋ねる。彼らは律法を信じ、律法を守り、律法に基づいて生きること存在をかけてきた。

「律法の中で。どの掟が最も重要か」。彼らは律

法を法律の条文のように厳密に守り、違反したものを非難し、自分たちを特別のものとしてきた。

主イエスは『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』(申命記6:5)これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』(レビ記19:18)」と明言された。

まず、愛すること。愛することは指導や命令によっては生まれない。出会い、寄り添うことから始まる。神を愛することは、神が御自分を示され語り掛けられたことから始まる。そこから神と共に生き、神が寄り添われる歩みが始まった。

律法には契約の内容の掟と出エジプトの民の歩みが重ねられている。神が愛し、その民が契約によって結ばれたからだ。人を愛することも、神が人々の中で生かされるためだ。

愛は絆である。契約が神と人とを結ぶきずとなつた。同時に愛は愛する思いをもたらず。神を愛し、人を愛することは、主イエスこそがなされたことだ。主イエスは、神として、人としてご自分を現わされ、神を愛し、人を愛された。この戒めの実践者となられた。

しかし、人はこれにどれだけ失敗を重ねているだろうか。人を傷つけ、神を失望させ続けている。しかし、それでも主は手放されなかった。そして、神と人を愛することを生きる起点としてくださった。

主は「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」(ヨハネ13:34,35)と教えられた。

主が愛してくださったところから、主に繋がるものが生きるようにされた。